

(10) 四 国



四国地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

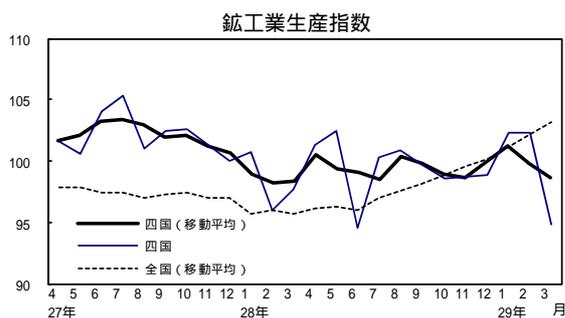
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 2 月)	今回 (平成 29 年 5 月)	
住宅建設	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

1～3月期には、化学は医薬品等が増加した。電気機械は、光電変換素子の生産が堅調なこと等から増加した。食料品は、レトルト食品等の生産減から減少した。はん用・生産用機械は、固定式クレーンの納期のタイミング等から増加した。非鉄金属は、電気金等が減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
化学	22.9	5.9	0.6	4.0	0.5	12.1
電気機械	15.8	1.7	4.3	6.0	7.2	1.8
食料品	10.5	2.6	0.6	6.9	8.3	1.9
はん用・生産用機械	10.0	16.1	10.5	2.6	44.5	39.3
非鉄金属	8.0	3.0	4.1	3.3	4.6	10.8
鉱工業	100.0	1.6	1.2	3.5	0.0	7.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1～3月期、3月は速報値。

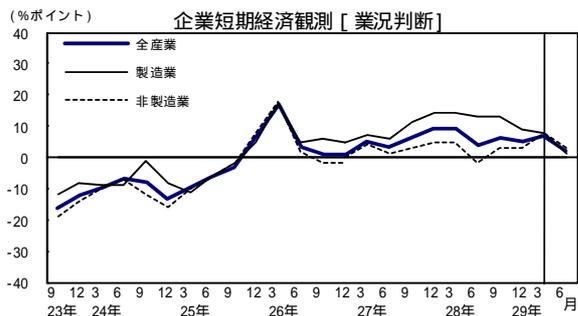
(備考) 1. 22年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

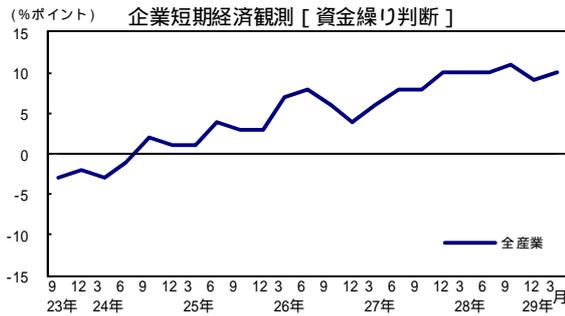
(10) 四国

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

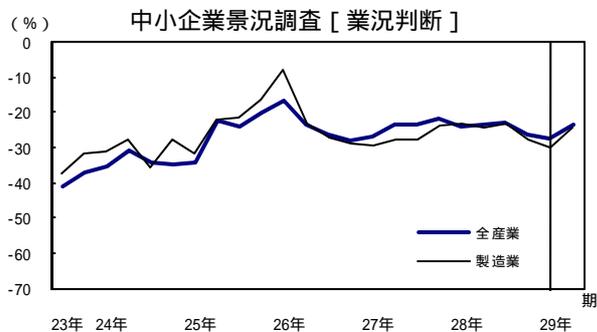
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年6月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

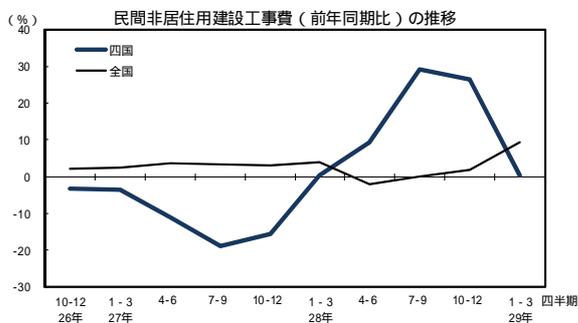


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「各関与先の決算書、試算表等を見ると、ホテル業は改善しているが、その他の業種には変化がない。ここしばらくは景気の変動はない(公認会計士)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事はおおむね横ばい。



企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	28年度実績見込み	29年度見込
全産業	9.3 (6.7)	2.7
製造業	6.7 (3)	5.0
非製造業	12.9 (11.8)	0.8

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.7%減、2月は同0.7%増、3月は同0.3%増となった。

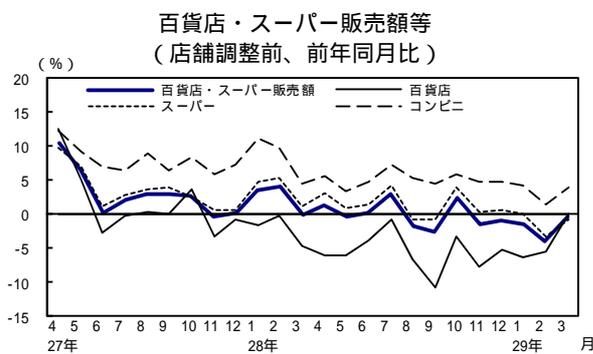
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は、全般的に衣料品が振るわなかったうえ、宝飾品などの高額品が鈍かった事等から前年を下回った。2月は、うるう年の前年に比べ営業日数が1日少なかったことに加え、気温の影響もあり、衣料品は冬物、春物の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。3月は、催事が好調だったことから家具や食料品に動きが見られたものの、春物の動きが鈍かった衣料品や身の回り品等から前年から横ばいとなった。

スーパーは、1～3月は衣料品が気温の影響もあり冬物や春物の動きが鈍かったうえ、生鮮野菜や鮮魚などが伸び悩み前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「軽自動車届出ベースは前年を上回っているが、4月は来店数が少なく、受注も少ない (乗用車販売店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

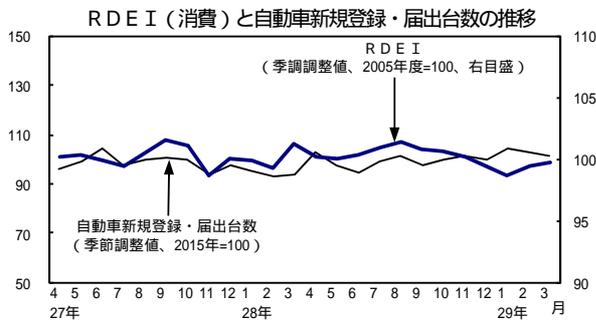


	29年1-3月	29年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.8	0.7	0.7	0.3
百貨店・スーパー (*2)	1.9	1.5	3.9	0.5
百貨店 (*2)	4.0	6.4	5.6	0.0
スーパー (*2)	1.3	0.0	3.4	0.7
コンビニ (*2)	3.3	4.2	1.5	3.9
乗用車 (*3)	9.3	10.4	9.7	8.2
(季節調整値) (*3)	2.3	4.2	1.1	1.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

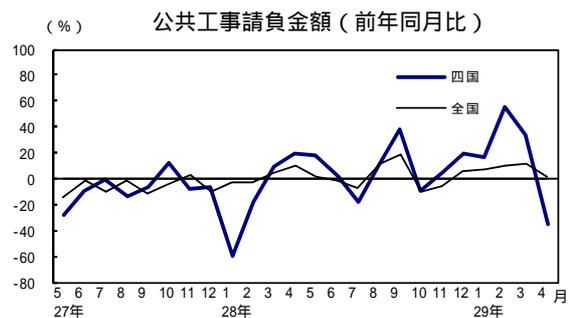
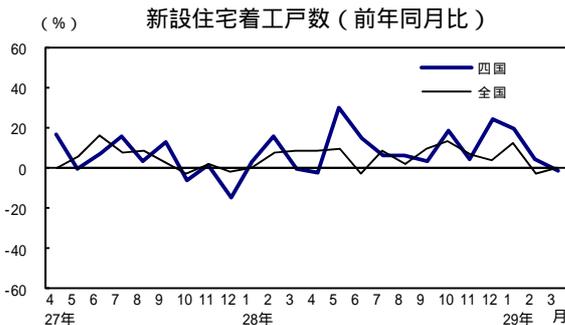
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は増加している。

分譲が前年を下回っているものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度を上回っている。



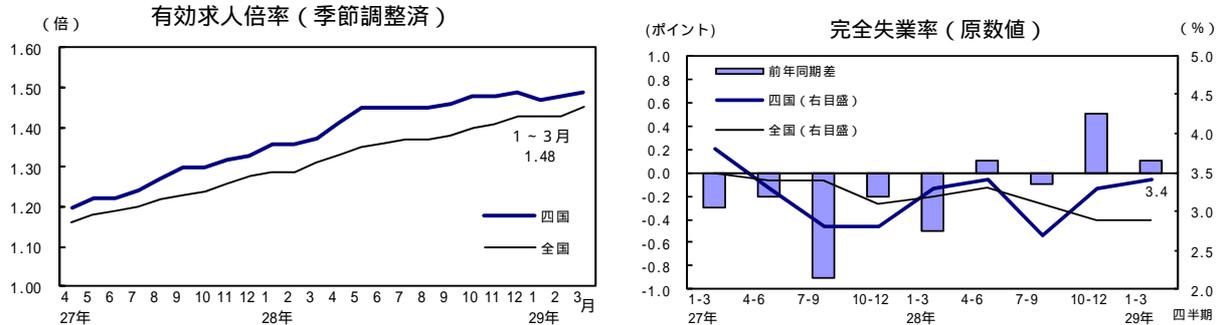
(10) 四国

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月調査結果)[雇用関連(現状)]

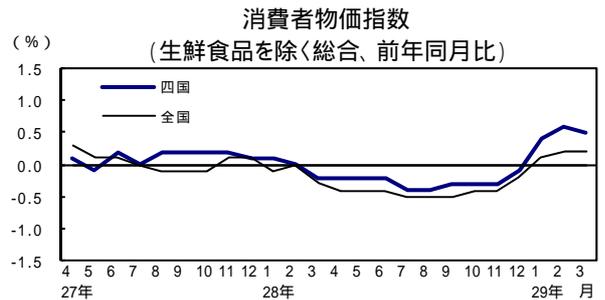
「各社とも人材難が続き、中途採用の求人数が増加傾向にあるが、それに対する解決策を見い出せていない(求人情報誌)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は、上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年4-6月	7-9月	10-12月	29年1-3月	29年4月
倒産件数	37	38	27	30	11
(前年比)	7.5	5.6	42.6	31.8	26.7
負債総額	102	42	67	67	11
(前年比)	69.4	47.8	19.4	43.1	54.9



景気ウォッチャー調査 (4月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・高額品は引き続き堅調。桜の開花が遅れるなど前半の気温低下が、衣料品や食品の売上にマイナス影響となり、特に衣料品は厳しい状況が続いている(百貨店)

<先行き>

- ・夏場はお遍路の仕事がかなり減り、今より悪くなる(タクシー運転手)

景気ウォッチャー調査(季節調整値)

